

大賀蓮の発掘の経緯

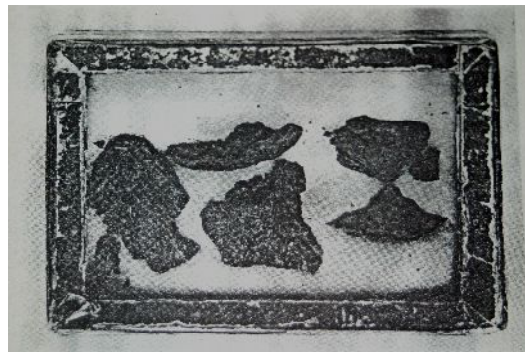
東京大学大学院農学生命科学研究科附属緑地植物実験所

特任職員 南定雄

大賀蓮の発掘の経緯について少し触れてみましょう。東京都は戦時中の燃料不足を補うため、東京大学検見川厚生農場(現在の東京大学総合運動場)の低地の一部を借り受け、泥炭(草やコケ、樹木が堆積し炭化したもので、乾燥すれば燃料にできる)を採掘する事業を行っていた。採掘は戦後になっても続けられた。そこからたまたま丸木舟と櫂が発見され、発掘調査が行われた。ここは落合遺跡と名づけられた。また、木の実、や蓮の果托も発掘されていた。古蓮の研究を行っていた大賀一郎博士は東京都の井の頭自然文化園の郷土館の中に展示されていた丸木舟と蓮の果托の陳列を見て、千葉市検見川の落合遺跡からの出土を知り、果托が出たなら蓮の実も出るに違いないと考え発掘の計画を思い立った(昭和25年)。その年の秋、丸木舟の出土地である検見川厚生農場の草炭採掘地を訪れた。



掘だされた丸木舟(昭和22年11月)



掘出された蓮の果托

当時、検見川厚生農場の事務所を訪ね、ここを掘らせてくれとお願いにこられた。余りにも熱心な思いに魅せられ、当時の管理人、高野忠興氏は協力することになった。そして発掘費用の協力を千葉市、県の教育庁、また奉仕活動を地元の中学等をお願いして回った。

1951年(昭和26年)古蓮の実の発掘は1週間の予定で始まり、丸木舟の発見地の北約50mの地が選ばれた。

花園中学校ならびに畑小学校の生徒も土ふるいに参加し、表土、泥炭層、青泥層と進むが、予定の期間も過ぎ、費用も底をつき、作業中止もやむを得ないと思われた3月30日、花園中学校の生徒がふるっていた青泥層の土の中から一粒の蓮の実が発見された。発掘作業はその後も続けられ、4月6日更に2個がふるい出された。

この古蓮の実は地下約5mの青泥層からの出土と確認されている。



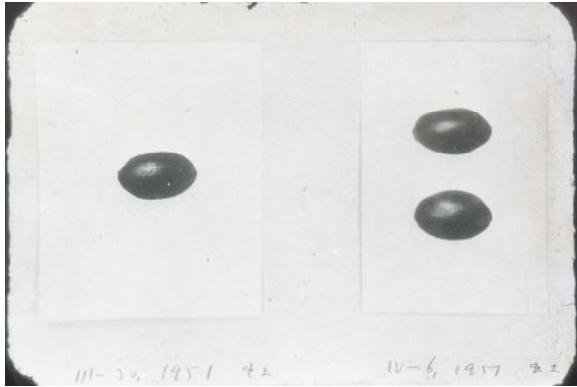
発掘の様子



土ふるいをする生徒

古蓮の発芽

古蓮の発芽試験は1951年5月6日大賀博士の自宅で行われた。発芽処理（種子の端部を鋏で切除）をした種子を水の中に浸した。



発掘された3個の古蓮



「L I F E」で紹介された古蓮の発芽

一粒は発芽後すぐ枯死したが2粒が生育し始めた。しかし6月12日に千葉県農業試験場に届けられた実生苗は3枚目の葉がでかかっていたが、植付ける前に枯死してしまった。

3月30日に出土した実生苗を6月17日に大賀博士の自宅に、千葉県農業試験場の石渡英夫氏が受け取りに行った。そして19日にコンクリート製の水槽に植付けた。その後、最新の注意が払われ管理された。9月末には8枚の葉がでていて蓮根の発育が順調で、来年の開花を大賀博士はこの時すでに期待されていた。

昭和27年4月7日に大賀博士立会いのもと蓮根が掘り上げられ、3つに分根された。約60cmの大きい蓮根は東京大学検見川厚生農場に植えられたが管理上の都合で4月10日に地元の伊原茂宅に移された。約40cmの蓮根は千葉公園に植えられ、最も小さい蓮根は千葉県農業試験場の圃場に植えられた。

古蓮の開花

伊原氏宅で育てられていた古蓮は順調の育ち、1952年7月の1日に1本目の蕾がでた。14日には2本目の蕾も出てきた。開花は7月18日で先端が僅かに開いた。翌日19日は開花2日目で太古の眠りから覚めた蓮はその全容をあらわし大賀博士や発掘に携われた人々に感動を与えた。

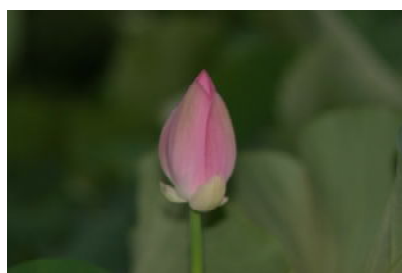
1953年4月25日に「検見川の大賀蓮」と命名され1954年3月31日付で千葉県天然記念物に指定された。その後「大賀蓮」とよばれて観賞用花蓮の代名詞になり全国に東京大学厚生農場〔現、東京大学総合運動場〕から発掘した蓮として有名になった。「大賀蓮」は発掘をなされた、大賀一郎博士の蓮にかけた情熱と発芽にいたる経緯などロマンと神秘性をかもし出していて、今も見る人びとをひきつけている。国内の各所はもとより、中国、タイ、ベトナム、ミャンマー、アメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、ブラジルと海外にも分根され、「蓮は平和の象徴也」と世界の平和を願われた大賀博士の意思が海外との友好に一翼を担っている。

大賀蓮の4日間

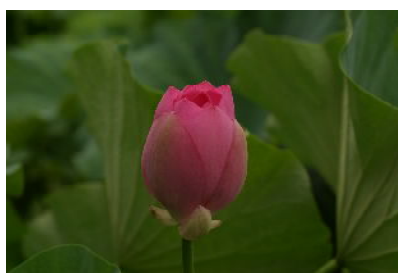
蓮の蕾が水中から顔を出してから約18日から20日で開花します。蓮の花は早朝から咲き始め、その容姿は日ごとに変化します。一番美しいのは2日目です。蓮の花は3日間開閉を繰り返し4日目に花弁は全部散ります。花の色も2日目以降の花弁から少しずつ退色をします。

1日目

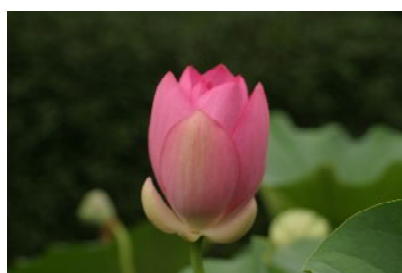
朝5、6時頃から花弁の先が少しずつ開く。7時から8時頃にかけて3～5cmぐらい開き、その後10時ごろにかけ閉じる。



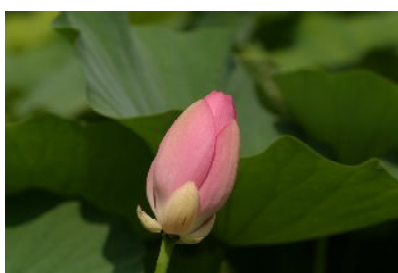
5:15



7:00



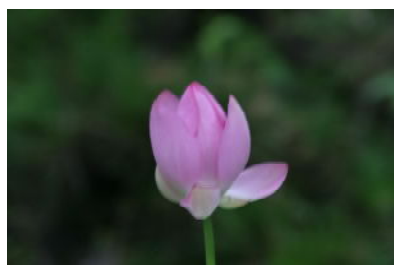
8:30



10:00

2日目

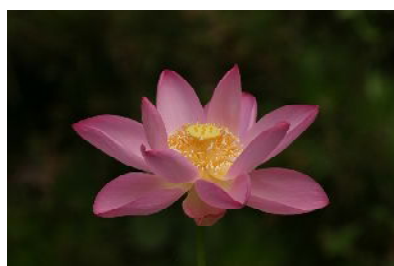
花は早朝4時頃から少しずつ開く。6時から7時頃にかけて満開になる。6時ごろから花粉から香りが出て昆虫が集まって受粉が行なわれる。この頃が蓮の花がもっとも美しい。天気良ければ9時頃から閉じ始め11時には完全に閉じる。



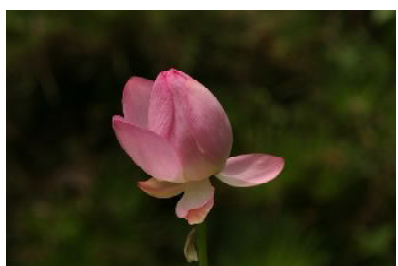
5:00



6:00



7:00



12:00

3日目

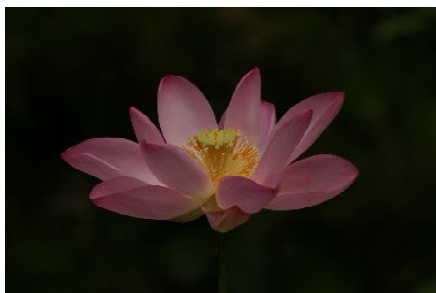
早朝の4時頃から少しずつ開花を始め、7時頃に花弁は満開になる。12時過ぎまで開いたままの姿である。雌蕊の先端が黒ずんでくると受精が行なわれたことがわかる。午後3時頃には花弁が閉じ始めるが2日目のように完全に閉じない。花弁の退色が進み2日目より薄くなる。



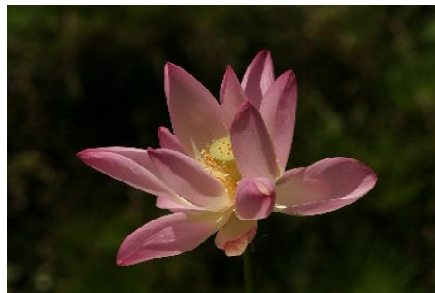
4:45



10:00



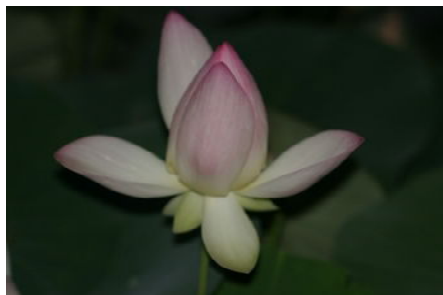
7:00



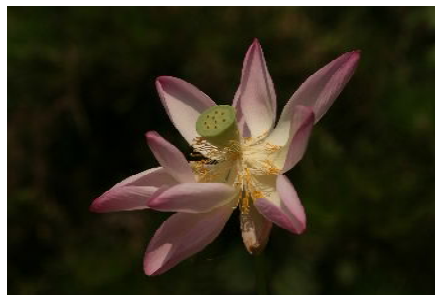
12:00

4日目

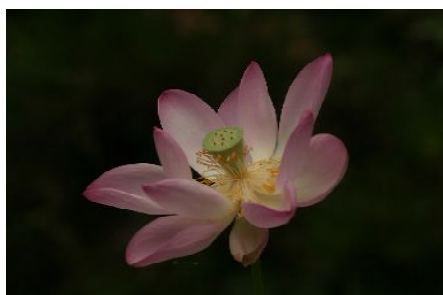
緩く閉じていた花弁が開き始め7時から8時頃までにほぼ全開になる。花托の上面は緑が濃くなり雄蕊も乱れてくる。花弁の退色も3日目より進み、11時過ぎになると花弁が少しずつ散り始め午後3時過ぎには完全に散る。



5:40



11:00



8:00



12:50